

文化情報誌

# たわわ

2015  
SPRING  
No.94

「たわわ」というタイトルには「小さな情報がたくさん集まって多くの実を結ぶように」という期待が込められています。



## 身近に、本物の芸術を。

—— 駅ビルから届く  
クラシックのおくりもの



# 毎日の生活に幸せの糧や潤いを。

## ♪湘南ステーションビル「ラスカ」



「チャリティコンサート2015年1月11日開催の様子」

### ♪ラスカの音楽

ラスカ祝祭管弦楽団、という言葉を知っていますか？  
平塚・小田原・茅ヶ崎で事業展開している駅ビル・ラスカが、クラシックのチャリティコンサートを開催する時に、特別に編成されるオーケストラのことです。

駅ビルがオーケストラを編成するというのは、全国的に見ても珍しいことです。

プロの演奏家で編成された素晴らしい管弦楽団は、「本格的な音楽を聴けた」「普段聴く機会がない一流の音楽に触れられる」とお客様の満足も期待も高いものです。

ラスカでは、「日頃のご愛顧への感謝を上質な文化に込めて。」を軸に、地域の企業として地元で根付いた文化事業に取り組んでいます。その中に、チャリティコンサートがあります。1989年からクラシックを中心に始まったチャリティコンサートは今では125回を数え、入場料は地域の文化振興の一助となるよう全額寄附しています。

地域に上質な文化を届けることがこのチャリティコンサートの目的ですが、地域アーティストに発表の場を設けている、ミニコンサートも行っています。

### ♪ミニコンサート

2月のある土曜日、ラスカ平塚のレストラン街でミニコンサートが開催されました。開始5分前の時点で、用意された座席はもう満席です。

老若男女のお客様が、素敵なお客様が、素敵な音楽を待ちわびていました。その日の演奏



「サクソの村松さんとピアノの前越さん」

は、サクソフォンの村松功介さんとピアノの前越静さん。平塚在住の前越さんが村松さんを誘って、ラスカ平塚のオーディションに合格しました。

「ここでの演奏はお客さんとの距離が近いので、顔が見えて反応が分かりやすい。お客さんの反応を見て、演奏を考えたりしています」と、村松さん。「生まれ育った平塚で、この街の方々に大好きな音楽をお聴きいただけることは何よりの喜びです」と前越さんは言います。

このミニコンサートは1995年から始まりました。湘南の若手音楽家や音大生への活動の場を提供したい、という思いからラスカ平塚が独自にオーディションを行い、合格したアーティ



ストに月に1度のペースで演奏の場を設けてきました。

「どなたでも気軽に、臨場感あふれる上質な音楽に触れられることが

魅力です。これをきっかけに音楽を好きになって頂けたり、演奏家のファンになって頂けることもあります。終わった後に「素晴らしい演奏でしたね」とお客様から声をかけていただくと、私も嬉しい気持ちになれます」担当者は、笑顔でそう答えてくれました。

この日は平塚在住の若手作曲家の曲の演奏もあり、30分の充実したプログラムが終わった後のお客様は、笑顔で演奏者に握手を求めています。

### ♪文化事業を続ける想い

ラスカの文化事業は、お客様だけではなく演奏者の協力もあって長年続けることができています。演奏者の方々もラスカの考えに賛同していただき、素晴らしい演奏を届けてくださっているのです。これからも「ラスカには身近で良質なコンサートがある」という認識をお客様にしていただき、毎日の生活の幸せの糧や潤いを提供していきたいと考えています。ラスカ平塚の6階にあるラスカホールもそんな思いから作られているのです。

また、ラスカ平塚の屋上には庭園があり、屋上庭園には芝生や大きなベンチがあります。

そこは、お子様が遊んだりお客様が一休みしたりする、憩いの場となっています。

これからも地域の皆様に、商業施設としてだけではないラスカの様々な活動を見守っていただきたいと思います。



「晴れた日の屋上庭園～ラスカの杜～」

（ミニコンサートは、都合により平成27年4月から一旦休止とさせていただきます。）

### 【プロフィール】

LUSCA(ラスカ)

旧国鉄出資の駅ビル第1号。

1973年開業で平塚に誕生。

現在では平塚のほか、茅ヶ崎、小田原、熱海（※現在改良工事中）で店舗を運営。チャリティーコンサートは、茅ヶ崎・平塚・小田原で行っている。

近々には、平成27年7月11日に小田原市民会館で「ラスカ小田原10周年記念コンサート」を開催する。バンドネオンの小松亮太さん、元宝塚歌劇団の彩吹真央さんをお招きし、ミュージカルやタンゴをお届けする予定。

LUSCA

## いらつかの文化財を知ろう⑤

### いにしへの儀式を今に伝う ～前鳥神社の祭事～

四之宮に鎮座する前鳥神社。その歴史は古く、平安時代に編纂された法令集『延喜式』にも記載され、相模国内で4番目の社格の神社でした。このことが当地の地名の由来でもあります。さて、前鳥神社を含む相模国内の6つの神社が集う大祭が、毎年5月5日に行われる「国府祭（こうのまち）」です。全国的にも貴重な祭典で、神奈川県無形民俗文化財に指定されています。六社それぞれの神事が行われますが、前鳥神社の場合は、大磯の神揃山（かみそりやま）へ神輿を担ぐ途中で行われます。担ぎ手達が神と同じものを食べ、体力を養う儀式で、「麦振舞」（むぎぶるまい）といいます。食事をし、御神酒（おみき）を飲み干すと、一斉に声を上げて立ち上がり、再び神輿を担ぎだします。今でこそ途中まで車で向かいますが、昔は全て人が担いでいったのですから、素朴な食事とはいえ、神の恵みとして体に沁み渡ったことでしょう。なお、「麦振舞」は秋の前鳥神社の例大祭でも行われています。

前鳥神社ではこのほか、例大祭での「神輿宮入（みやいり）」と、「日本武尊之舞」（やまとたけるのみことのまい）という祭事を伝え、「麦振舞」とあわせて平塚市無形民俗文化財に指定されています。現代は都市化や担い手不足で、存続が危ぶまれる祭事も少なくありません。前鳥神社の祭事を

平塚市には、国、県、市それぞれが指定する文化財があります。日頃触れることの少ない、貴重な文化財について御紹介します。

目にした際には、神社の長い歴史とともに、これらを守り伝えてきた人々の力を感じることができるのではないのでしょうか。



麦振舞  
里芋（またはツワブキ）の葉の上に盛ったおこわと唐辛子をまぶした大根の煮付けを食べます。

## 姉妹都市提携25周年 ローレンスレポート①

アメリカ・カンザス州ローレンス市と平塚市は1990年に姉妹都市の提携を結び、今年で25周年です。青少年交流や5年に1度の互いの公式訪問など、現在も交流が続いています。ローレンス在住のキャロル・シャンケルさんに最新のローレンス情報をお聞きしました。

### ローレンス と言えばココ!

ローレンスと言えば大学の街。最も高い丘、オレイド山に建つカンザス大学（KU）には約400haの美しいキャンパスがあります。ローレンスは大学と共に発展し、教育が最大の「産業」です。大学の文化とスポーツは、ローレンスの特色とイメージになっています。

ローレンス市の人口は約87,000人、このうち約25,000人が学生で、日本を含む



KU構内



オレイド山から見たKUとローレンス市全景

101か国から留学生2,300人が集まっています。また、市内には国立ハスケルインディアン大学があり、全米から約1,000人のネイティブアメリカンが入学しています。

KUは学術・芸術・スポー

ツなど豊かで、世界中から集まるコンサート、演奏者、講演者が学生と地域に提供するイベントに出演します。街は芸術を奨励しているため、活気があります。

マサチューセッツ通りとジェイホークブルーバード（キャンパス内）は2つの美しいメイン通りです。

マサチューセッツ通りはダウンタウンのメイン通り。小さな地元のお店やレストランがあり、友好的な小さな街の雰囲気を伝えています。



マサチューセッツ通り

写真提供 KU Marketing Communications

# 『史跡の風景』第13回

## 戦国の終焉 中原御殿と谷川



御殿跡にある中原小学校



相州中原御殿之碑

中原御殿は徳川家康の宿所として、また中原街道の名前の由来の地として知られています。

「新編相模国風土記稿」の記載によると、場所は中原宿の西方九十六間(174m)。規模は東西七十八間(141m)、南北五十六間(101m)の方形区画で、四方

を幅六間(10.9m)の堀が囲み、東面を表としています。造営は慶長元年(1596)が妥当と推定しています。家康の逗留回数は慶長十年(1605)から元和元年(1615)までの間に11回を数え、元和三年(1617)に家康の遺骸を久能山から日光へ改葬する際には、その柩を止宿させたと記されています。その後寛永十九年(1642)に修復の手が入り、明暦三年(1657)に引き払われています。

御殿跡を囲む一帯の大字名は「御殿」、中核となる郭の方形区画は小字名「御殿地(ごでんぢ)」と称され、現在平塚市立中原小学校の敷地となっています。中原小学校の敷地は東西125m、南北150mを測る方形で、西部を欠くものの御殿と堀の区画をほぼ踏襲しています。周辺の道路はT字路が多く見通しが利きません。現在の通行には不便ですが、敵の侵入から御殿を守る街並みの面影を残しているのです。



谷川(手前)と渋田川の合流点

御殿の北側の砂丘間凹地を西方に流れる谷川(やがわ)は現在そのほとんどが暗渠化され、一部は遊歩道として親しまれていますが、途中から砂丘列を横切って北へ向かうという不自然な流路をとっています。これは御殿を囲む堀の水量を調節するため、また御殿北側の防衛力を高める堀として機能させるために人為的に流路を変えたからなのです。

時は天正十八年(1590)、駿河から江戸に移封された家康ですが、いざという時に秀吉からの攻撃に対して領国と江戸を守る備えが必要でした。その最前線が東海道を押さえる小田原城なのですが、秀吉の圧倒的な軍勢力の前に籠城戦では勝ち目はありません。こうした情勢の中で造営された中原御殿の役割は、前線の動向を把握し迅速に領国内の兵員全体を指揮・移動させる、後方陣地としての機能です。中原御殿は中原街道によって江戸城と連絡するだけでなく、府中御殿(東京都府中市)と連携することによって、東海道の最前線小田原と甲州街道の最前線八王子を支え、江戸城防衛網を形成していました。「御殿」の名前とは裏腹に、そこに隠された巧みな立地と防衛機能はまさに戦国の城館そのものだったのです。

御殿が引き払われた後、周囲に残された広大な幕府直轄地は国有地として維新政府に引き継がれ、火薬廠用地として平塚の近代を運命づけて行くのです。



遊歩道脇に残された谷川橋の欄干

### ワークショップ 大人のためのアルトリコーダー入門

アルトリコーダーは、今のクラシックの元になる楽器です。誰でも簡単に始めることができる気軽な楽器ですが、やり始めると奥深さに気付きます。

講師はNHK教育テレビ「ふえはうたう」等に出演したこともある穴倉先生。「聖者が街にやってくる」や「のぼら」が吹けるようになるまで、楽しく指導をしてください。

日程 平成27年7月7日から全10回

受講料 10,000円(高校生5,000円)

対象 高校生以上 30名(先着順) 申し込みは平成27年6月5日から電話受付。

詳しいお問い合わせ  
(公財)平塚市まちづくり財団  
文化事業課(32-2237)



### ペコちゃん展

日本企業の代表的キャラクターであるペコちゃん。今回は(株)不二家の協力を得て、ペコちゃんの魅力に迫る展覧会を行います。会期中は「ミルキーを作ろう」「ペコちゃんと踊ろう」等の楽しいワークショップも開催。ぜひ足をお運びください。

会期 平成27年7月11日～9月13日

会場 平塚市美術館

入場料 大人800円 高大生500円



詳しいお問い合わせ  
平塚市美術館  
(35-2111)

### 平塚市文化振興基金に御協力を!

平塚市文化振興基金に御寄附をいただいた方(平成27年3月から5月まで)

■しんわ本人自治会連合会(H27.3.17)

発行 平塚市文化・交流課

〒254-0045 平塚市見附町 15-1 平塚市民センター内 電話 0463-32-2235 FAX 0463-31-6466

平成27年(2015年)5月15日発行 e-mail bunkoh@city.hiratsuka.kanagawa.jp ホームページ <http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/bunka/index.htm>